


～郷土かるたで故郷発見～

諏訪のいろはかるた (3)

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた（信濃文化研究会作成）」に詠われたかるたを紹介いたします。



お 温泉は八坂刀売命化粧の綿の水
おんせん はちさかとうりのみこと けしょうわたみず

明神さまのお后、八坂刀売命が別居して下の諏訪に移るとき、上社の神宮寺に湧いていた温泉を綿にしめして、化粧水として持って行くことになった。途中その綿にしめしたお湯が滴り落ちたところが、福島・赤沼・小和田・湯の脇・湖中の七つ釜・三つ釜の温泉だといわれている。女神がその綿を置いた所が綿の湯で、その湯に不浄の者が入浴すれば、湯口が濁るといわれ、諏訪明神の七不思議の一つに数えられている。中山道下諏訪宿は、このいで湯の街として知られていた。「東海道膝栗毛」で有名な十返舎一九などもその紀行文に下諏訪温泉の賑わいを書いているし、江戸時代の道中絵図にもユモラスな入浴風景が描かれている。温泉は庶民の憩いの場となつて、農繁期を終わつた農民は湯治としゃれて、その天然の恩恵に浴した。



な 名も高し流鏑馬の誉諏訪盛澄
な もたか しやぶさめ のほまれ すわもりずみ

盛澄は下社大祝で、武術の達人として知られていた。当時は平家全盛の時代であったが、源氏再興のため自分の娘を木曾義仲にめあわせて、親子の関係を結んでこれを援助した。義仲の挙兵に応じて転戦し義仲が粟津原に討死にするまで諏訪勢はその中心勢力であった。そのため盛澄は鎌倉にはその中心勢力に触れ死罪を命じられたが、頼朝の寵臣、梶原景時は盛澄のすぐれた流鏑馬の妙技が絶えるのを惜しみこれをとりなした。そして文治元年（一一八五）鶴岡八幡宮の「放生会」に召出されて頼朝の面前で百発百中の神技を見せその罪を許された。それからは正月の御弓始めには選ばれて、妙技を披露し諏訪武士の名を高めた。

盛澄は梶原景時の恩義を忘れず、下諏訪に梶原塚をつくつて、その冥福を祈った。



いよいよお母祭
 巨大柴舟が練り歩く



(昨年の祭風景から)

今月のおすすめ

～町図書館から～



著 平田 昌広
 絵 平田 景

ぼんこつドライブ

小学館

アッコはある土曜日、父ちゃんに言いました。「ねえ、どっかに連れてって。土曜日の“ど”は“ど”っか連れてって、の“ど”なんですけど。」しかしアッコのうちには車がありません。すると父ちゃんはどこからかおんぼる車を調達してきました。アッコは「ボンコツじゃん!」「なんだよ、気に入らないなら気に入るようにしようじゃないか」そこで派手にペンキを塗りまくり、ゴキゲンな車にへ～ンシン! さあ、さっそくのぼんこつドライブです! (宮坂昭子)



著 福岡 伸一

ルリボシカミキリの青

文藝春秋

子どもの頃、私は虫が大好きな昆虫少年であった。憧れは、小さなカミキリムシのルリボシカミキリ。その美しさはあのフェルメールをもってしても描くことの出来ない深い青。それに震えた感触が私のセンス・オブ・ワンダーだった。
 狂牛病から、ダイエット、コラーゲンの正体、またハチミツが絶対腐らない秘密や花粉症対策と生活密着の生物学的解説は、目からウロコの感動モノです。(島田博子)



日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月の暦 冠落し
 中村裕 一作

下諏訪町総務課 ☎27-1111 内線259 FAX28-1070 E-mail jyoho@town.shimosuwa.nagano.jp
 下諏訪町教育委員会 ☎27-1111内線718 FAX28-0131 E-mail syougai@town.shimosuwa.nagano.jp
 下諏訪町社会福祉協議会 ☎27-7396 FAX27-0890 E-mail syougai@town.shimosuwa.nagano.jp